

実務経験のある教員等による授業科目一覧【スポーツ鍼灸学科】

授業科目	単位数	実務経験のある科目担当教員の氏名
東洋医学診断論 1	2	小寺 凌
東洋医学診断論 2	2	小寺 凌
東洋医学臨床論 1	2	小寺 凌
東洋医学臨床論 2	2	馬男木亨
東洋医学臨床論 3	2	馬男木亨
鍼灸理論 2	2	黒川典子
社会鍼灸学	2	河口弘幸
応用実技 1	1	河口弘幸
応用実技 2	1	宮原正人
応用実技 3	1	中村裕司
応用実技 4	1	中村裕司
応用実技 5	1	中村裕司
応用実技 6	1	大庭慎一郎
臨床実技 1	1	小寺 凌
臨床実技 2	1	大中孝子
臨床実技 3	1	宮原正人
臨床実技 4	1	村上晋介
臨床実技 5	1	馬男木亨
臨床実習 1	1	大中孝子
臨床実習 2	1	大中孝子
臨床実習 3	1	大中孝子
臨床実習 4	1	馬男木亨
総合演習 2	2	小寺 凌
総合演習 3	2	大庭慎一郎
総合演習 4	2	黒川典子
総合演習 5	2	小寺 凌
総合演習 6	2	馬男木亨
合 計	39	

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野								
	○												
授業科目名	スポーツ科学2					担当者名		鍵村 昌範					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次			
	単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
授業概要	将来臨床現場において必要な人材となりうるためにコミュニケーション学の内容や理論を学び、言語や非言語によるコミュニケーションと対人関係との相互作用についての理解を深めることを目的とする。												
成績評価	原則として、定期試験および追・再試験の結果で評価する。												
その他	実務経験なし												

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	現代コミュニケーション学	池田 理知子 著	(株)有斐社
参考図書			

回数	授業計画
1	キャリアと豊かな仕事生活①
2	キャリアと豊かな仕事生活②
3	キャリアと豊かな仕事生活③
4	ビジネスマナーの基本①:ビジネスマナー
5	ビジネスマナーの基本②:職場でのコミュニケーション
6	ビジネスマナーの基本③:円滑なコミュニケーションのために、社会人としての身だしなみ
7	就学中のマナー①:出席から遅刻までのルール、仕事中の態度や行動
8	就学中のマナー②:態度や表情は内面から出る、感じの良い挨拶
9	就学中のマナー③:お客様との接し方 + 練習問題
10	指示の受け方と報告、連絡、相談①:指示を受け話を聞くポイント、報告の仕方
11	指示の受け方と報告、連絡、相談②:報告の仕方(続き)、マナーの模擬試験
12	指示の受け方と報告、連絡、相談③:相談と忠告の受け方
13	話し方の基本①:印象がよくなるビジネスにふさわしい話し方
14	話し方の基本②:印象が強くビジネスにふさわしい話し方
15	話し方の基本③:プレゼンテーションの基本、敬語の必要性和種類
16	話し方の基本④:自己紹介の作成
17	座り方、熨斗
18	料理マナー
19	名刺交換マナー
20	期末試験

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野								
	○										
授業科目名	保健体育理論2				担当者名	得本 啓次					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
単位数							40				
授業概要	健康スポーツは身体を動かすことを楽しみ、生活に役立つ健康な身体と心を維持増進することを目的とする。適切な指導を行えることが、これからの健康の維持増進に必要不可欠であるため、子どもから高齢者の特徴について学んでいく。講義の中で、実際に身体を動かす場面やテーピング実技を行う場合もある。										
成績評価	小テスト、定期試験、授業態度を総合的に評価する。										
その他	実務経験なし										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	健康スポーツセラピスト知識検定公式テキスト	水嶋 章陽 他 著	
参考図書	生涯スポーツトレーナー教本	水嶋 章陽 他 著	

回数	授業計画
1	ガイダンス・ZERO100プロジェクトについて・スポーツ栄養学①
2	スポーツ栄養学②
3	保健指導①
4	保健指導②
5	実技(ストレッチ・手遊び・筋トレ)
6	実技(コーディネーショントレーニング)
7	実技(ストレッチ・筋トレ)
8	実技(コーディネーショントレーニング)
9	スポーツ心理学①
10	スポーツ心理学②
11	スポーツマネジメント
12	スポーツマネジメント
13	人体解剖学
14	人体解剖学
15	地下講堂にて実技(背骨コンディショニングレッスン)
16	スポーツとは何か?
17	模擬試験
18	栄養学 『甘くない砂糖の話』
19	終講試験
20	実技(二人組での身体作り、レクリエーションゲーム)

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野								
		○									
授業科目名	解剖学5				担当者名	村上 晋介					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
単位数							40				
授業概要	中枢神経と末梢神経の構造と走行について習得する。										
成績評価	中間試験、期末試験に出席状況、授業態度等を考慮し、総合的に評価する。										
その他	実務経験なし										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	解剖学(第2版)	河野邦雄、伊藤隆造他著 (社)東洋療法学校協会編	医歯薬出版
参考図書			

回数	授業計画
1	神経組織(神経細胞・神経膠細胞) 脊髄・脳(大脳・間脳・脳幹・小脳)① 脊髄の構造
2	脊髄・脳(大脳・間脳・脳幹・小脳)② 大脳の構造(大脳皮質・大脳髄質)
3	脊髄・脳(大脳・間脳・脳幹・小脳)③ 大脳の構造(大脳皮質・大脳髄質)・間脳(視床・視床下部)
4	脊髄・脳(大脳・間脳・脳幹・小脳)④ 脳幹(中脳・橋・延髄)・小脳
5	脊髄・脳(大脳・間脳・脳幹・小脳)⑤ まとめ
6	脳室系・脳血管・伝導路① 脳室系・脳血管
7	脳室系・脳血管・伝導路② 上行性伝導路
8	脳室系・脳血管・伝導路③ 下行性伝導路
9	脳神経系① (嗅神経・視神経・動眼神経)
10	中間試験 脳神経系② (滑車神経・三叉神経・外転神経)
11	脳神経系③ (顔面神経・内耳神経・舌咽神経)
12	脳神経系④ (迷走神経・副神経・舌下神経)
13	脳神経系⑤ まとめ
14	脊髄神経系① 神経叢(頸神経叢・腕神経叢・腰神経叢・仙骨神経叢) 頸神経叢・腕神経叢
15	脊髄神経系② 神経叢(頸神経叢・腕神経叢・腰神経叢・仙骨神経叢) 腕神経叢
16	脊髄神経系③ 神経叢(頸神経叢・腕神経叢・腰神経叢・仙骨神経叢) 腰神経叢・仙骨神経叢
17	脊髄神経系④ まとめ
18	自律神経系(交感神経・副交感神経)① 交感神経系
19	自律神経系(交感神経・副交感神経)② 副交感神経系
20	期末試験

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野								
		○									
授業科目名	解剖学6				担当者名	小寺 凌					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
単位数							40				
授業概要	1年次に行った解剖学と生理学の結びつけながら、復習する。										
成績評価	原則として、定期試験および追・再試験の結果で評価する。										
その他	実務経験なし										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	解剖学(第2版)	河野邦雄、伊藤隆造他著 (社)東洋療法学校協会編	医歯薬出版
参考図書			

回数	授業計画
1	細胞と骨筋 1
2	細胞と骨筋 2
3	内臓と感覚 1
4	内臓と感覚 2
5	脈管と呼吸 1
6	脈管と呼吸 2
7	まとめ 1
8	まとめ 2
9	中間試験
10	総括
11	細胞と骨筋 3
12	細胞と骨筋 4
13	内臓と感覚 3
14	内臓と感覚 4
15	脈管と呼吸 3
16	脈管と呼吸 4
17	神経 1
18	神経 2
19	期末試験
20	解答解説

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野								
		○									
授業科目名	生理学3				担当者名	黒川 典子					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
	単位数	2			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
							40				
授業概要	第10章 神経～第12章 運動にかけてを学習する。										
成績評価	平常点(小テスト等)、定期試験および追・再試験の結果にて評価を行う。										
その他	実務経験なし										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	生理学(第3版)	佐藤優子・佐藤昭夫他 著 東洋療法学校協会編	医歯薬出版
参考図書			

回数	授業計画
1	第10章 神経;ニューロンの構造と働き
2	ニューロンの構造と働き②
3	中枢神経系
4	中枢神経系②
5	中枢神経系③
6	末梢神経系
7	末梢神経系②
8	まとめと復習
9	中間試験
10	第11章 筋;構造と働き～筋収縮の仕組み
11	エネルギー代謝～心筋と平滑筋
12	第12章 運動;運動の調節①
13	運動の調節②
14	運動の調節③
15	運動の調節④
16	錐体路と錐体外路
17	発声と言語
18	まとめと復習
19	期末試験
20	試験解説・問題演習

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野								
		○									
授業科目名	生理学4				担当者名	黒川 典子					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
単位数								40			
授業概要	第13章 感覚～第15章 身体活動の協調 にかけてを学習する。										
成績評価	平常点(小テスト等)、定期試験および追・再試験の結果にて評価を行う。										
その他	実務経験なし										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	生理学(第3版)	佐藤優子・佐藤昭夫他 著 東洋療法学校協会編	医歯薬出版
参考図書			

回数	授業計画
1	第13章 感覚 ; 感覚の分類と一般～内臓感覚
2	; 痛覚
3	; 痛覚②
4	; 特殊感覚
5	; 特殊感覚②
6	; 特殊感覚③
7	; 特殊感覚④
8	まとめと復習
9	中間試験(第13章～14章)
10	第14章 生体の防御機構; 生体の防御機構
11	; 生体の防御機構②
12	; 生体の防御機構③
13	; アレルギー反応
14	; アレルギー反応②
15	第15章 身体活動の協調; 生体の適応
16	; 恒常性維持
17	; バイオリズム
18	まとめと復習
19	期末試験(第14章～15章)
20	試験解説・問題演習

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野								
		○									
授業科目名	運動学				担当者名	宮原 正人					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
単位数								40			
授業概要	<p>運動学人間の身体運動を科学的に研究する学問分野である。運動障害をもつ患者の治療にあたる医療従事者は、治療・訓練を行う際に、その前提に正常運動とはいかなるものかを理解しておく必要がある。そこで、1年次に学習した解剖学、生理学の基礎知識を基に、特に運動系(人間の運動にかかわる身体と構造)について総合的な理解を深めることを教育目標とする。</p>										
成績評価	原則として、定期試験および追・再試験の結果で評価する。										
その他	実務経験なし										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	解剖学(第2版)	河野邦雄、伊藤隆造他著 (社)東洋療法学校協会編	医歯薬出版
参考図書	配布資料		

回数	授業計画
1	運動学総論
2	上肢の運動①
3	上肢の運動②
4	上肢の運動③
5	上肢の運動④
6	運動器の構造と機能①
7	運動器の構造と機能②
8	神経の構造と機能①
9	神経の構造と機能②
10	中間試験
11	下肢の運動①
12	下肢の運動②
13	下肢の運動③
14	体幹の運動①
15	体幹の運動②
16	姿勢・歩行
17	運動感覚・反射・随意運動
18	運動発達・運動学習
19	期末試験
20	期末試験解説

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野							
			○									
授業科目名	病理学概論					担当者名	皆川 剛					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
授業概要	現代医学的観点からそれぞれの器官の疾患の病因、症状、疫学、検査、治療法を理解することを目的とする。											
成績評価	原則として、中間試験、期末試験および追・再試験の結果で評価する。											
その他	実務経験なし											

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	病理学概論 第2版	滝澤 登一郎・畠山 茂 著 (社)東洋療法学校協会 編	医歯薬出版
参考図書			

回数	授業計画
1	総論 + 病因① 内因
2	病因② 外因
3	循環障害① 充血・うっ血・出血・貧血
4	充血、うっ血
5	出血、血栓症
6	塞栓、梗塞、水腫(浮腫)
7	ショック
8	循環障害② 塞栓症・血栓症・梗塞・水腫
9	退行性病変
10	進行性病変①
11	中間試験 + 進行性病変②
12	炎症① 総論
13	炎症② 分類
14	腫瘍① 総論
15	腫瘍② 分類
16	アレルギー
17	免疫異常
18	遺伝子異常
19	期末試験
20	解答解説

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野								
		○									
授業科目名	臨床医学総論1				担当者名	村上 晋介					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
	単位数	2			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
授業概要	現代医学で用いられる診察法と検査法について理解することを目的とする。 また症状別の病態についても習得していく。										
成績評価	中間試験、期末試験に出席状況、授業態度等を考慮し、総合的に評価する。										
その他	実務経験なし										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	臨床医学総論 第2版	奈良 信夫 著 (社)東洋療法学校協会 編	医歯薬出版
参考図書			

回数	授業計画
1	第1章 診察の概要 第2章 診察の方法①(医療面接・身体診察) 医療面接
2	第2章 診察の方法②(医療面接・身体診察) 視診・触診
3	第2章 診察の方法③(医療面接・身体診察) 打診・聴診
4	第2章 診察の方法④(医療面接・身体診察) まとめ
5	第3章 生命徴候(バイタルサイン)の診察① 体温・脈拍
6	第3章 生命徴候(バイタルサイン)の診察② 血圧・呼吸
7	第3章 生命徴候(バイタルサイン)の診察③ まとめ
8	第4章 全身の診察① (顔貌・精神状態・言語・身体計測)
9	中間試験 第4章 全身の診察② (体型・栄養状態)
10	第4章 全身の診察③ (姿勢と体位・歩行)
11	第4章 全身の診察④ (皮膚状態・爪の状態・リンパ節)
12	第4章 全身の診察⑤ まとめ
13	第5章 局所の診察① (頭部・顔面・眼)
14	第5章 局所の診察② (鼻・耳・口腔・顎部)
15	第5章 局所の診察③ (胸部・乳房・肺・心臓)
16	第5章 局所の診察④ (腹部・背部・四肢の変形)
17	第5章 局所の診察⑤ まとめ
18	第6章 神経系の診察① (感覚検査法・反射検査)
19	第6章 神経系の診察② (脳神経系の検査・髄膜刺激症状)
20	期末試験

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野								
		○									
授業科目名	臨床医学総論2				担当者名	早野 大孝					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
	単位数	2			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
授業概要	現代医学で用いられる診察法と検査法について理解することを目的とする。 また症状別の病態についても習得していく。										
成績評価	原則として、定期試験(中間試験2回、期末試験1回の計3回実施する)、追・再試験の結果、及び出席により評価する。										
その他	実務経験なし										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	臨床医学総論 第2版	奈良 信夫 著 (社)東洋療法学校協会 編	医歯薬出版
参考図書			

回数	授業計画
1	第7章 運動機能検査 1
2	第7章 運動機能検査 2
3	第7章 運動機能検査 3
4	中間試験(1回目)
5	第8章 その他の診察
6	第9章 臨床検査法 1
7	第9章 臨床検査法 2
8	第9章 臨床検査法 3
9	中間試験(2回目)
10	第10章 おもな症状の診察法 1
11	第10章 おもな症状の診察法 2
12	第10章 おもな症状の診察法 3
13	第10章 おもな症状の診察法 4
14	第10章 おもな症状の診察法 5
15	第10章 おもな症状の診察法 6
16	第10章 おもな症状の診察法 7
17	第10章 おもな症状の診察法 8
18	第11章 治療学 ・ 第12章 臨床心理
19	期末試験
20	解答解説

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野								
		○									
授業科目名	臨床医学各論1				担当者名	早野 大孝					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
単位数							40				
授業概要	現代医学的観点からそれぞれの器官の疾患の病因、症状、疫学、検査、治療法を理解することを目的とする。										
成績評価	原則として、定期試験(中間試験2回、期末試験1回の計3回実施する)、追・再試験の結果、及び出席により評価する。										
その他	実務経験なし										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	臨床医学各論 第2版	奈良 信夫・佐藤千史他 著 (社)東洋療法学校協会 編	医歯薬出版
参考図書			

回数	授業計画
1	第1章 感染症 1
2	第1章 感染症 2
3	第1章 感染症 3
4	第1章 感染症 4
5	第1章 感染症 5
6	中間試験(1回目)
7	第2章 消化管疾患 1
8	第2章 消化管疾患 2
9	第2章 消化管疾患 3
10	第2章 消化管疾患 4
11	第2章 消化管疾患 5
12	第2章 消化管疾患 6
13	中間試験(2回目)
14	第3章 肝・胆・膵疾患 1
15	第3章 肝・胆・膵疾患 2
16	第3章 肝・胆・膵疾患 3
17	第3章 肝・胆・膵疾患 4
18	第3章 肝・胆・膵疾患 5
19	期末試験
20	解答解説

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野								
		○									
授業科目名	臨床医学各論2				担当者名	宮原 正人					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
	単位数	2			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
授業概要	現代医学的観点からそれぞれの器官の疾患の病因、症状、疫学、検査、治療法を理解することを目的とする。										
成績評価	原則として、授業態度、定期試験および追・再試験の結果で評価する。										
その他	実務経験なし										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	臨床医学各論 第2版	奈良 信夫・佐藤千史他 著 (社)東洋療法学校協会 編	医歯薬出版
参考図書			

回数	授業計画
1	呼吸器疾患1
2	呼吸器疾患2
3	呼吸器疾患3
4	血液・造血疾患1
5	血液・造血疾患2
6	血液・造血疾患3
7	神経疾患1
8	神経疾患2
9	神経疾患3
10	中間試験・解答 解説
11	神経疾患4
12	神経疾患5
13	神経疾患6
14	その他の領域1
15	その他の領域2
16	その他の領域3
17	その他の領域4
18	その他の領域5
19	期末試験
20	期末試験解答・解説

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野								
		○									
授業科目名	臨床医学各論3				担当者名	早野 大孝					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
	2					前期	後期	前期	後期	前期	後期
単位数					授業時間数					40	
授業概要	現代医学的観点からそれぞれの器官の疾患の病因、症状、疫学、検査、治療法を理解することを目的とする。										
成績評価	原則として、定期試験(中間試験2回、期末試験1回の計3回実施する)、追・再試験の結果、及び出席により評価する。										
その他	実務経験なし										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	臨床医学各論 第2版	奈良 信夫・佐藤千史他 著 (社)東洋療法学校協会 編	医歯薬出版
参考図書			

回数	授業計画
1	第5章 腎・尿器疾患 1
2	第5章 腎・尿器疾患 2
3	第5章 腎・尿器疾患 3
4	第5章 腎・尿器疾患 4
5	中間試験(1回目) 第6章 内分泌疾患 1
6	第6章 内分泌疾患 2
7	第6章 内分泌疾患 3
8	第6章 内分泌疾患 4
9	第7章 代謝・栄養疾患 1
10	第7章 代謝・栄養疾患 2
11	中間試験(2回目) 第9章 循環器疾患 1
12	第9章 循環器疾患 2
13	第9章 循環器疾患 3
14	第9章 循環器疾患 4
15	第9章 循環器疾患 5
16	第12章 リウマチ性疾患・膠原病 1
17	第12章 リウマチ性疾患・膠原病 2
18	第12章 リウマチ性疾患・膠原病 3
19	期末試験
20	解答・解説

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野								
		○									
授業科目名	臨床医学各論4				担当者名	早野 大孝					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等 授業時間数	1年次		2年次		3年次	
	2					前期	後期	前期	後期	前期	後期
単位数											40
授業概要	臨床医学各論1～3の内容を詳細に確認し、総復習を行う。										
成績評価	原則として、小テスト、定期試験および追・再試験の結果、及び出席により評価する。										
その他	実務経験なし										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	臨床医学各論 第2版	奈良 信夫・佐藤千史他 著 (社)東洋療法学校協会 編	医歯薬出版
参考図書			

回数	授業計画
1	感染症
2	消化管疾患
3	肝・胆・膵疾患
4	呼吸器疾患
5	腎・尿器疾患
6	内分泌疾患
7	代謝・栄養疾患
8	整形外科疾患
9	中間試験
10	循環器疾患
11	血液・造血器疾患
12	神経疾患
13	リウマチ性疾患・膠原病
14	一般外科
15	麻酔科
16	婦人科疾患
17	皮膚科疾患
18	精神科疾患
19	期末試験
20	解答解説

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野								
		○									
授業科目名	リハビリテーション医学				担当者名	馬男木 亨					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
単位数										40	
授業概要	リハビリテーションの基礎のうち最も大切な障害学と運動学を習得し、正しい知識を深めることを目的とする。										
成績評価	定期試験の成績、小テスト、出席状況、授業態度を総合的に判断し評価する。										
その他	実務経験なし										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	リハビリテーション医学 第4版	土肥 信之 著 (社)東洋療法学校協会 編	医歯薬出版
参考図書	配布資料		

回数	授業計画
1	リハビリテーションと障害
2	リハビリテーションと医学と医療
3	障害の評価①
4	障害の評価②
5	脳卒中①
6	脳卒中②
7	脊髄損傷①
8	脊髄損傷②
9	切断①
10	中間試験 解答・解説
11	切断②
12	小児疾患
13	パーキンソン病
14	関節リウマチ
15	変形性関節症
16	呼吸器疾患
17	心疾患
18	運動学の基礎
19	期末試験
20	期末試験の解答・解説

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野								
			○								
授業科目名	医療概論			担当者名	早野 大孝						
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
	2					前期	後期	前期	後期	前期	後期
単位数					授業時間数					40	
授業概要	東西両医学・医療史および現代の医療制度、医療倫理についての理解を目的とする。										
成績評価	原則として、定期試験および追・再試験の結果、及び出席により評価する。										
その他	実務経験なし										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書			
参考図書			

回数	授業計画
1	現代の医療と社会(医療と社会)
2	現代の医療と社会(医療従事者)
3	現代の医療と社会(医療・福祉施設)
4	現代の医療と社会(医療経済)
5	社会保障制度(医療保険のしくみ)
6	社会保障制度(公費負担医療)
7	社会保障制度(介護サービス行政)
8	医療倫理(医療の倫理)
9	医療倫理(医療倫理教育)
10	医療倫理(施術者としての倫理)
11	医療について①
12	医療について②
13	医療について③
14	医療について④
15	医療について⑤
16	医療について⑥
17	医療について⑦
18	医療について⑧
19	期末試験
20	解答・解説

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野								
			○								
授業科目名	衛生学公衆衛生学			担当者名	大庭 慎一郎						
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
	2					前期	後期	前期	後期	前期	後期
単位数					授業時間数					40	
授業概要	人体と環境との繋がりを学び、医療に必要な衛生的知識を習得させ、身につけることを目的とする。										
成績評価	原則として、定期試験および追・再試験の結果、及び授業態度で評価する。										
その他	実務経験なし										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	衛生学・公衆衛生学	鈴木庄亮・他著 (社)東洋療法学校協会編	医歯薬出版
参考図書			

回数	授業計画
1	衛生学について・第1章:衛生学とは
2	第2章:健康の概念2
3	第3章:ライフスタイルと健康
4	第4章:環境と健康:日常生活環境・環境問題1
5	第4章:環境問題2
6	第5章:産業保健
7	第6章:精神保健の意義、精神の健康、精神障害の現状と分類 I
8	第7章:母子保健
9	第8章:老人・高齢者保健の意義・加齢と老化・生活習慣病の特徴と対策
10	第8章:老人福祉対策、介護保険、難病対策の現状
11	第9章:感染症の意義と種類
12	第9章:発生要因・感染症
13	第10章:消毒法一般、消毒の種類
14	第11章:疫学
15	第12章:保健統計①
16	第12章:保健統計②
17	第12章:保健統計③
18	国際保健
19	期末試験
20	期末試験/解答・解説

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野							
					○							
授業科目名	東洋医学診断論1					担当者名	小寺 凌					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
	単位数	2			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
授業概要	東洋医学の診察法である四診について、また、治療法である治則・治法について学び、東洋医学的な鑑別診断に用いる知識を学ぶ。											
成績評価	原則として、定期試験および追・再試験の結果で評価する。											
その他	小寺凌(鍼灸施設勤務)											

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	東洋医学概論	教科書執筆委員会 著	医道の日本社
参考図書			

回数	授業計画
1	四診法と弁証論治
2	望診①
3	望診②
4	望診③
5	望診④
6	聞診
7	問診①
8	問診②
9	問診③
10	中間試験 解答・解説
11	切診①
12	切診②
13	切診③
14	切診④
15	切診⑤
16	切診⑥
17	弁証①
18	論治①
19	期末試験
20	解答解説

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野							
					○							
授業科目名	東洋医学診断論2					担当者名		小寺 凌				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
	単位数	2			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
授業概要	症状に対して、東洋医学的病態把握(弁証論治)、治療方法(配穴)を習得する。											
成績評価	定期試験および追・再試験の結果で評価する。											
その他	小寺凌(鍼灸施設勤務)											

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	東洋医学臨床論	教科書執筆小委員会著 (社)東洋医法学校協会編	医道の日本社
参考図書			

回数	授業計画
1	頭痛
2	顔面痛、顔面麻痺
3	歯痛、眼精疲労
4	鼻閉、鼻汁、脱毛症
5	めまい、耳鳴、難聴
6	咳嗽、喘息
7	胸痛、腹痛
8	悪心、嘔吐
9	便秘、下痢
10	中間試験 解答・解説
11	月経異常
12	排尿障害、インポテンス
13	高血圧、低血圧
14	食欲不振、肥満
15	発熱、のぼせ、冷え
16	不眠、倦怠感
17	発赤、小児症状
18	まとめ
19	期末試験
20	解答解説

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野								
			○								
授業科目名	東洋医学臨床論1					担当者名	小寺 凌				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
	単位数	2			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
授業概要	患者さんの主訴に対する西洋医学的(現代医学的)な病態把握、治療を学ぶ。										
成績評価	定期試験および追・再試験の結果で評価する。										
その他	小寺凌(鍼灸施設勤務)										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	東洋医学臨床論	教科書執筆小委員会著 (社)東洋医法学校協会編	医道の日本社
参考図書			

回数	授業計画
1	腰部の解剖 股関節の解剖
2	腰下肢痛①
3	腰下肢痛② 神経学的診断
4	腰下肢痛③ 神経学的診断
5	股関節痛
6	膝の解剖
7	膝痛
8	下肢の疾患①
9	下肢の疾患②
10	中間試験 解答・解説
11	頸部の解剖
12	頸肩腕痛①
13	頸肩腕痛② 神経学的診断
14	頸肩腕痛③ 神経学的診断
15	胸郭出口症候群
16	肩関節の解剖 肩関節疾患①
17	上肢の解剖 上腕二頭筋長頭腱炎
18	絞扼神経障害(橈骨神経・正中神経・尺骨神経)
19	期末試験
20	解答・解説

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野								
			○								
授業科目名	東洋医学臨床論2			担当者名	馬男木 亨						
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等 授業時間数	1年次		2年次		3年次	
	2					前期	後期	前期	後期	前期	後期
単位数									40		
授業概要	東洋医学概論で学んだ概念を元に、臨床上遭遇しやすい疾患・症候についての概要と治療法を理解することを目的とする。 また治療の適不適の鑑別を判断し適切な鍼灸治療が行えるように、東洋医学的、西洋医学的の両観点から疾患の知識を深める。										
成績評価	原則として、定期試験および追・再試験の結果で評価する。										
その他	馬男木亨(鍼灸施設勤務)										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	東洋医学臨床論	教科書執筆小委員会著 (社)東洋療法学校協会編	医道の日本社
参考図書			

回数	授業計画
1	神経・筋疾患①
2	神経・筋疾患②
3	神経・筋疾患③
4	運動器疾患①
5	運動器疾患②
6	運動器疾患③
7	スポーツ障害①
8	スポーツ障害②
9	現代医学的治療の考え方
10	中間試験 解答・解説
11	消化器疾患
12	呼吸器疾患
13	循環器疾患
14	泌尿器疾患
15	婦人科膝関
16	耳鼻咽喉疾患
17	膠原病
18	その他の内科疾患・老年医学
19	期末試験
20	期末試験/解答・解説

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野								
			○								
授業科目名	東洋医学臨床論3			担当者名	馬男木 亨						
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等 授業時間数	1年次		2年次		3年次	
	2					前期	後期	前期	後期	前期	後期
単位数											40
授業概要	東洋医学概論で学んだ概念を元に、臨床上遭遇しやすい疾患・症候についての概要と治療法を理解することを目的とする。 また治療の適不適の鑑別を判断し適切な鍼灸治療が行えるように、東洋医学的、西洋医学的の両観点から疾患の知識を深める。										
成績評価	原則として、定期試験および追・再試験の結果で評価する。										
その他	馬男木亨(鍼灸施設勤務)										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	東洋医学臨床論	教科書執筆小委員会著 (社)東洋療法学校協会編	医道の日本社
参考図書			

回数	授業計画
1	東洋医学臨床論:基礎①
2	東洋医学臨床論:基礎②
3	東洋医学臨床論:基礎③
4	東洋医学臨床論:基礎④
5	東洋医学臨床論:基礎⑤
6	東洋医学臨床論:基礎⑥
7	東洋医学臨床論:基礎⑦
8	東洋医学臨床論:基礎⑧
9	東洋医学臨床論:基礎⑨
10	中間試験 解答・解説
11	東洋医学臨床論:臨床①
12	東洋医学臨床論:臨床②
13	東洋医学臨床論:臨床③
14	東洋医学臨床論:臨床④
15	東洋医学臨床論:臨床⑤
16	東洋医学臨床論:臨床⑥
17	東洋医学臨床論:臨床⑦
18	東洋医学臨床論:臨床⑧
19	期末試験
20	期末試験/解答・解説

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野								
			○								
授業科目名	鍼灸理論2			担当者名	黒川 典子						
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等 授業時間数	1年次		2年次		3年次	
	2					前期	後期	前期	後期	前期	後期
単位数									40		
授業概要	医療の中で求められる鍼灸治療の基本知識や生体反応について理解し、東洋医学と西洋医学の相互理解を深めることを目的とする。 ここでは鍼灸臨床で用いる器具、技術、衛生処置、リスク管理、生体反応、研究、学説について学ぶ。										
成績評価	原則として、小テスト、定期試験および追・再試験の結果、及び出席により評価する。										
その他	黒川典子(鍼灸施設勤務)										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	はりきゆう理論	教科書執筆小委員会著 (社)東洋療法学校協会編	医道の日本社
参考図書			

回数	授業計画
1	鍼灸の基礎 1
2	鍼灸の基礎 2
3	鍼灸の基礎 3
4	鍼灸と自律神経 1
5	鍼灸と自律神経 2
6	鍼灸と自律神経 3
7	関連学説 1
8	関連学説 2
9	中間試験
10	治効の基礎 1
11	治効の基礎 2
12	治効の基礎 3
13	治効の基礎 4
14	治効の基礎 5
15	治効の基礎 6
16	治効の基礎 7
17	鍼灸と免疫機構 1
18	鍼灸と免疫機構 2
19	期末試験
20	期末試験/解答・解説

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野								
			○								
授業科目名	社会鍼灸学				担当者名	河口 弘幸					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等 授業時間数	1年次		2年次		3年次	
	2					前期	後期	前期	後期	前期	後期
単位数									40		
授業概要	現代社会においてのはり師・きゅう師の役割や社会的ニーズを、歴史や関係する法律を踏まえて学ぶ										
成績評価	原則として、定期試験および追・再試験の結果で評価する。										
その他	河口弘幸(鍼灸施設勤務)										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	関係法規、医療概論	教科書執筆小委員会 著 (社)東洋療法学校協会 編	医道の日本社
参考図書			

回数	授業計画
1	オリエンテーション+世界医療史
2	東洋医学史
3	日本医学史①
4	日本医学史②
5	現代の医療制度とその問題点①:福祉法規、社会保険など
6	現代の医療制度とその問題点②:医療費の問題(医療費増大の問題、公費負担医療について)
7	あはき法①(「免許」「取得・再交付・身分の消滅と復活」)
8	あはき法②(業務内容・施術所・罰則①)
9	あはき法③(業務内容・施術所・罰則②)
10	あはき法④「罰則」、法の種類、医療法、医師法、中間試験
11	医療従事者に関する法律(医師と薬剤師)、保健一般に関する法律、予防衛生に関する法律
12	あはき法③(業務内容・施術所・罰則②)
13	あはき法③(業務内容・施術所・罰則②)
14	あはき法③(業務内容・施術所・罰則②)
15	あはき法③(業務内容・施術所・罰則②)
16	環境衛生に関する法律、社会福祉関係法規、介護保険制度
17	鍼灸師が活躍する場①(開業鍼灸師)
18	鍼灸師が活躍する場②(病院勤務鍼灸師)
19	期末試験
20	期末試験/解答・解説

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野						
					○						
授業科目名	応用実技1				担当者名	河口 弘幸					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
			1		授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
単位数								40			
授業概要	伝統医学における鍼灸臨床は、四診法(望・聞・問・切診)を行い、弁証論治に基づき処方と配穴を行う。 そこで、四診法を体得し、弁証論治を習得する。										
成績評価	中間試験、期末試験および授業態度を考慮し、総合的に評価する。										
その他	河口弘幸(鍼灸施設勤務)										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	配布プリント		
参考図書			

回数	授業計画
1	ガイダンス 望診(顔面診)
2	望診(舌診)①
3	望診(舌診)②
4	聞診
5	問診①
6	問診②
7	切診①(脈診)
8	切診②(脈診)
9	切診③(脈診)
10	中間試験
11	切診(腹診)①
12	切診(腹診)②
13	切診(背診)①
14	切診(背診)②
15	切診(切経、切穴)
16	四診法まとめ
17	四診法から弁証論治①
18	四診法から弁証論治②
19	期末試験
20	解答解説

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野								
			○								
授業科目名	応用実技2					担当者名	宮原 正人				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
			1		授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
単位数								40			
授業概要	<p>日常で障害されやすい筋肉の触診と、その筋に対して正確でスムーズな施術を体得する。 その中で、鍼通電療法(パルス)を体得する。</p>										
成績評価	中間試験、期末試験および授業態度を考慮し、総合的に評価する。										
その他	宮原正人(鍼灸施設勤務)										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書			
参考図書	図解 整形外科学検査法		

回数	授業計画
1	ガイダンス 低周波鍼通電療法の使い方
2	下腿部の触診
3	下腿部(伸筋群)のパルス①(前脛骨筋、長指伸筋、腓腹筋など)
4	下腿部(屈筋群)のパルス②(腓腹筋、長趾屈筋、後脛骨筋など)
5	大腿部の触診
6	大腿部のパルス(大腿四頭筋、大腿二頭筋など)
7	前腕部の触診
8	前腕部(伸筋群)のパルス①(橈側手根伸筋、総指伸筋など)
9	前腕部(屈筋群)のパルス②(橈側手根屈筋、腕橈骨筋など)
10	中間試験
11	上腕部の触診
12	上腕部のパルス(上腕二頭筋、上腕三頭筋、三角筋など)
13	肩甲部の触診
14	肩甲部のパルス(棘上筋、棘下筋、肩甲挙筋など)
15	腰背部の触診
16	腰背部のパルス(僧帽筋、脊柱起立筋、腰方形筋など)
17	頭部、頸部の触診
18	頭部、頸部のパルス(板状筋、斜角筋、胸鎖乳突筋など)
19	期末試験
20	解答解説

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野								
			○								
授業科目名	応用実技3					担当者名	中村 裕司				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
			1		授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
単位数								40			
授業概要	鍼灸臨床でよく用いられる経穴のスムーズな取穴と施術を体得する。										
成績評価	配点の割合は、中間試験5割、期末試験5割で行う。 取穴実技、小テスト、 平常点(授業に対する姿勢)・出席点などで総合的に評価する。										
その他	中村裕司(鍼灸施設勤務)										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	新版 経絡経穴概論	教科書執筆小委員会著 (社)東洋療法学校協会編	医道の日本社
参考図書			

回数	授業計画
1	授業の説明、試験の説明、骨度寸法
2	手の太陰肺経、手の陽明大腸経の取穴
3	手の少陰心経、手の太陽小腸経の取穴
4	手の厥陰心包経、手の少陽三焦経の取穴
5	背部俞穴の取穴①
6	背部俞穴の取穴②
7	手の三陰経で取穴
8	手の三陽経で取穴
9	要穴の筆記試験、取穴練習
10	中間試験
11	足の陽明胃経、足の太陰脾経の取穴
12	足の太陽膀胱経、足の少陰腎経の取穴
13	足の少陽胆経、足の厥陰肝経の取穴
14	募穴の取穴①
15	募穴の取穴②
16	足の三陰経で取穴
17	足の三陽経で取穴
18	取穴練習
19	要穴の筆記試験、取穴練習
20	期末試験

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野							
					○							
授業科目名	応用実技4					担当者名	中村 裕司					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
			1		授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
単位数								40				
授業概要	現代医学的に病態を把握する中で、必ず必要となる検査法を習得する。											
成績評価	中間試験、期末試験および授業態度を考慮し、総合的に評価する。											
その他	中村裕司(鍼灸施設勤務)											

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	はりきゅう実技 基礎編	教科書執筆小委員会著 (社)東洋療法学校協会編	医道の日本社
参考図書			

回数	授業計画
1	頸部と上肢の検査
2	頸部と上肢の検査
3	頸部と上肢の検査
4	頸部と上肢の検査
5	頸部と上肢の検査
6	頸部と上肢の検査
7	頸部と上肢の検査
8	頸部と上肢の検査
9	頸部と上肢の検査
10	中間試験
11	腰部と下肢の検査
12	腰部と下肢の検査
13	腰部と下肢の検査
14	腰部と下肢の検査
15	腰部と下肢の検査
16	腰部と下肢の検査
17	腰部と下肢の検査
18	腰部と下肢の検査
19	期末試験
20	解答解説

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野							
					○							
授業科目名	応用実技5					担当者名	中村 裕司					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数			1		授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
									40			
授業概要	ここでは基礎で学んだ技術に身体の各部位別に適切な刺鍼・施灸が行えることを目的とする。 また疾患の鑑別に必要な検査法を習得することを目的とする。											
成績評価	実技小テストの点数と、期末試験の点数に平常点として出席状況、授業態度等医療人としての自覚を加味して総合的に評価します。											
その他	中村裕司(鍼灸施設勤務)											

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書			
参考図書	図解 整形外科学検査法	新関真人	医道の日本

回数	授業計画
1	膝：検査法①：OAに対する検査法
2	膝：検査法②：外傷に対する検査法
3	膝：刺鍼・施灸 1
4	膝：刺鍼・施灸 2
5	膝：刺鍼・施灸 3
6	足関節：検査 1
7	足関節：検査 2
8	足関節：刺鍼・施灸 1
9	足関節：刺鍼・施灸 2
10	足関節：刺鍼・施灸 3
11	腰下肢・殿部：検査法 1
12	腰下肢・殿部：検査法 2
13	腰下肢・殿部：刺鍼・施灸 1
14	腰下肢・殿部：刺鍼・施灸 2
15	腰下肢・殿部：刺鍼・施灸 3
16	腰下肢・殿部：股関節周囲への刺鍼 1
17	腰下肢・殿部：股関節周囲への刺鍼 2
18	腰下肢・殿部：坐骨神経への刺鍼 1
19	腰下肢・殿部：坐骨神経への刺鍼 2
20	期末試験

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野							
					○							
授業科目名	応用実技6					担当者名	大庭 慎一郎					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数			1		授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
									40			
授業概要	ここでは基礎で学んだ技術に身体の各部位別に適切な刺鍼・施灸が行えることを目的とする。 また疾患の鑑別に必要な検査法を習得することを目的とする。											
成績評価	実技小テストの点数と、期末試験の点数に平常点として出席状況、授業態度等医療人としての自覚を加味して総合的に評価します。											
その他	大庭慎一郎(鍼灸施設勤務)											

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	はりきゆう実技 基礎編	教科書執筆小委員会著 (社)東洋療法学校協会編	医道の日本社
参考図書	図解 整形外科学検査法	新関真人	医道の日本

回数	授業計画
1	肩関節:検査法・関節可動域検査 1
2	肩関節:検査法・関節可動域検査 2
3	肩関節:刺鍼・施灸 1
4	肩関節:刺鍼・施灸 2
5	肩関節:刺鍼・施灸 3
6	頸部:検査法・関節可動域検査 1
7	頸部:検査法・関節可動域検査 2
8	頸部:刺鍼・施灸 1
9	頸部:刺鍼・施灸 2
10	頸部:刺鍼・施灸 3
11	胸郭:検査法 1
12	胸郭:刺鍼・施灸 1
13	胸郭:刺鍼・施灸 2
14	胸郭:刺鍼・施灸 3
15	自由上肢:検査法 1
16	自由上肢:検査法 2
17	自由上肢:刺鍼・施灸 1
18	自由上肢:刺鍼・施灸 2
19	期末試験
20	総復習、まとめ

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野								
			○								
授業科目名	臨床実技1					担当者名	小寺 凌				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
			1		授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
単位数										40	
授業概要	中医学と経絡治療を基盤とした伝統医学的治療の考え方、治療法を体得する。										
成績評価	期末試験の点数に平常点として出席状況、授業態度等医療人としての自覚を加味して総合的に評価します。										
その他	小寺凌(鍼灸施設勤務)										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	配布プリント		
参考図書	経絡経穴概論	教科書執筆小委員会著 (社)東洋療法学校協会編	医道の日本社

回数	授業計画
1	オリエンテーション、背候診①
2	背候診②
3	腹診
4	原穴診と東洋医学的問診票
5	舌診と脈診
6	四診法の流れ、経絡テスト
7	弁証論治①
8	弁証論治②
9	VAMFIT①
10	VAMFIT②
11	経筋治療①
12	経筋治療②
13	奇経治療①
14	奇経治療②
15	長野式基本処置①
16	長野式基本処置②
17	弁証論治③
18	弁証論治④
19	期末試験
20	期末試験/解答・解説

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野		〇						
授業科目名	臨床実技2					担当者名	大中 孝子				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等 授業時間数	1年次		2年次		3年次	
			1			前期	後期	前期	後期	前期	後期
単位数										40	
授業概要	レディース鍼灸(女性特有の疾患・症状)について治療の考え方、治療法を体得する。										
成績評価	定期試験の成績、出席状況、授業態度を総合的に判断し評価する。										
その他	大中孝子(鍼灸施設勤務)										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	配布プリント		
参考図書			

回数	授業計画
1	レディース鍼灸について
2	自律神経の調整(冷え～不定愁訴)
3	婦人科:周期異常
4	婦人科:月経痛①
5	婦人科:月経痛①
6	婦人科:不妊
7	婦人科:骨盤位
8	マタニティ鍼灸:妊娠時へのアプローチ
9	更年期障害
10	美容の鍼①
11	美容の鍼②
12	美容の鍼③
13	美容の鍼④
14	美容の鍼⑤
15	美容の鍼⑥
16	美容の鍼⑦
17	美容の鍼⑧
18	美容の鍼⑨
19	期末試験
20	期末試験/解答・解説

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野							
					○							
授業科目名	臨床実技3					担当者名	宮原 正人					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
			1		授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
単位数											40	
授業概要	トリガーポイントの関連痛部位を理解し適切な治療を行える。 足関節の構造を理解し、スターアップ・ホースシュー・ヒールロック・フィギュアエイトを巻くことができる。 解剖学を理解し適切な部位・深度・刺入方法で鍼を刺入することができる。											
成績評価	レポート提出、出席状況、授業態度等医療人としての自覚を加味して総合的に評価します。											
その他	宮原正人(鍼灸施設勤務)											

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	配布プリント		
参考図書	東洋医学臨床論	教科書執筆小委員会著 (社)東洋療法学校協会編	医道の日本社

回数	授業計画
1	トリガーポイント 下肢 1
2	トリガーポイント 下肢 2
3	トリガーポイント 上肢 1
4	トリガーポイント 上肢 2
5	トリガーポイント 頸部 1
6	トリガーポイント 頸部 2
7	テーピング 1
8	テーピング 2
9	テーピング 3
10	西洋医学的鍼治療 上肢 1
11	西洋医学的鍼治療 上肢 2
12	西洋医学的鍼治療 体幹 1
13	西洋医学的鍼治療 体幹 2
14	西洋医学的鍼治療 体幹 3
15	西洋医学的鍼治療 腰背部 1
16	西洋医学的鍼治療 腰背部 2
17	西洋医学的鍼治療 下肢 1
18	西洋医学的鍼治療 下肢 2
19	期末試験
20	期末試験/解答・解説

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野								
			○								
授業科目名	臨床実技4			担当者名	村上 晋介						
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
			1			前期	後期	前期	後期	前期	後期
単位数					授業時間数						40
授業概要	鍼灸臨床でよく見られる不定愁訴を中心に、現代医学的アプローチ、東洋医学的アプローチによる治療を学ぶ。										
成績評価	期末試験および授業態度を考慮し、総合的に評価する。										
その他	村上晋介(鍼灸施設勤務)										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
	配布プリント		

回数	授業計画
1	頸肩腕痛に対する鍼灸治療①
2	頸肩腕痛に対する鍼灸治療②
3	肩関節痛に対する鍼灸治療① (肩関節周囲炎・腱板炎)
4	肩関節痛に対する鍼灸治療② (肩関節周囲炎・腱板炎)
5	腰痛に対する鍼灸治療① (筋筋膜性腰痛・椎間関節性腰痛)
6	腰痛に対する鍼灸治療② (筋筋膜性腰痛・椎間関節性腰痛)
7	腰痛(下肢症状を伴う)に対する鍼灸治療③ (ヘルニア・坐骨神経痛)
8	腰痛(下肢症状を伴う)に対する鍼灸治療④ (ヘルニア・坐骨神経痛) 坐骨神経刺鍼(鍼通電)
9	股関節痛に対する鍼灸治療
10	膝痛(変形性膝関節症・ランナー膝)に対する鍼灸治療①
11	膝痛(変形性膝関節症・ランナー膝)に対する鍼灸治療② 大腿筋膜張筋刺鍼(鍼通電)
12	胸郭出口症候群に対する鍼灸治療①
13	胸郭出口症候群に対する鍼灸治療②
14	特殊鍼法(神経パルス)① (正中神経パルス・尺骨神経パルス)
15	特殊鍼法(神経パルス)② (肩甲上神経パルス・肩甲背神経パルス)
16	特殊鍼法(神経パルス)③ 電気鋲鍼を用いた神経パルス(上肢の筋)
17	特殊鍼法(神経パルス)④ 電気鋲鍼を用いた神経パルス(下肢の筋)
18	治療のまとめ
19	期末試験
20	期末試験/解答・解説

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野		○						
授業科目名	臨床実技5					担当者名	馬男木 亨				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等 授業時間数	1年次		2年次		3年次	
			1			前期	後期	前期	後期	前期	後期
単位数											40
授業概要	我が国は超高齢社会となり、益々高齢者の割合が増えることが予測される。そこで、東西両方の観点から高齢者特有の疾患・症状を理解し、適切な鍼灸治療を体得する。										
成績評価	定期試験の成績、出席状況、授業態度を総合的に判断し評価する。										
その他	馬男木亨(鍼灸施設勤務)										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	配布プリント		
参考図書			

回数	授業計画
1	肩凝り、頭痛
2	眩暈、耳鳴、難聴
3	脳卒中後後遺症
4	ロールプレイ①
5	運動器症状(腰痛、膝OA)
6	排尿障害(夜間頻尿、過活動膀胱、前立腺肥大症)
7	排便障害(便秘、下痢)
8	ロールプレイ②
9	パーキンソン病
10	不眠
11	うつ
12	ロールプレイ③
13	糖尿病
14	帯状疱疹
15	認知症
16	ロールプレイ④
17	治療のまとめ①
18	治療のまとめ②
19	期末試験
20	期末試験/解答・解説

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野							
					○							
授業科目名	臨床実習 1					担当者名	大中 孝子					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
				1	授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
単位数								45				
授業概要	患者に接する医療人としての姿勢をみにつける医療面接を行う。 医療面接の目的である「ラポールの形成」「情報聴取」「患者教育」の3点の意識づけ。 日常的に行っている人への接し方が、ロールプレイを通じてどのように感じられているのかを「気づき」、自分なりに「受容」「検討」する。											
成績評価	授業後に記載するレポート提出と、定期試験による医療面接のロールプレイにて評価する。											
その他	大中孝子（鍼灸施設勤務）											

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書			
参考図書			

回数	授業計画
1	オリエンテーション
2	オリエンテーション
3	医療面接 医療面接技法 1
4	医療面接 医療面接技法 2
5	医療面接 コミュニケーションの方法 1
6	医療面接 コミュニケーションの方法 2
7	医療面接 問診項目のチェック、導入 一般的問診 1
8	医療面接 問診項目のチェック、導入 一般的問診 2
9	医療面接 問診項目のチェック、導入 一般的問診 3
10	医療面接 問診項目のチェック、導入 十問診 1
11	医療面接 問診項目のチェック、導入 十問診 2
12	医療面接 問診項目のチェック、導入 十問診 3
13	医療面接 ビュアレビュー 1
14	医療面接 ビュアレビュー 2
15	医療面接 ビュアレビュー 3
16	メモを取りながらの医療面接 ロールプレイ 1
17	メモを取りながらの医療面接 ロールプレイ 2
18	メモを取りながらの医療面接 ロールプレイ 3
19	メモを取りながらの医療面接 ロールプレイ 4
20	メモを取りながらの医療面接 ロールプレイ 5
21	カルテの書き方説明、カルテ記入 1
22	カルテの書き方説明、カルテ記入 2
23	カルテの書き方説明、カルテ記入 3
24	カルテ記載による医療面接 ロールプレイ 1
25	カルテ記載による医療面接 ロールプレイ 2
26	カルテ記載による医療面接 ロールプレイ 3
27	カルテ記載による医療面接 ロールプレイ 4
28	カルテ記載による医療面接 ロールプレイ 5
29	総括 1
30	総括 2

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野								
			○								
授業科目名	臨床実習2					担当者名	大中 孝子				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
				1	授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
単位数									45		
授業概要	<p>これまで習得した技術や技法を用いて、臨床の現場でよくみられる各疾患に対する適切な診察が行えることを目的とする。</p> <p>また臨床でよく用いられる徒手検査法も反復して行い、技術向上を図る。</p>										
成績評価	試験およびカルテやフィードバック用紙の提出状況、出席状況、服装、衛生的な手技、授業態度等を総合的に評価する。										
その他	大中孝子(鍼灸施設勤務)										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書			
参考図書			

回数	授業計画
1	OSCE症例(頸部疾患) 1
2	OSCE症例(頸部疾患) 2
3	OSCE症例(頸部疾患) 3
4	OSCE症例(頸部疾患) 4
5	OSCE症例(肩関節疾患) 1
6	OSCE症例(肩関節疾患) 2
7	OSCE症例(肩関節疾患) 3
8	OSCE症例(肩関節疾患) 4
9	OSCE症例(上肢疾患) 1
10	OSCE症例(上肢疾患) 2
11	OSCE症例(上肢疾患) 3
12	OSCE症例(上肢疾患) 4
13	OSCE症例(胸郭出口症候群) 1
14	OSCE症例(胸郭出口症候群) 2
15	OSCE症例(胸郭出口症候群) 3
16	OSCE症例(胸郭出口症候群) 4
17	OSCE症例(腰下肢疾患) 1
18	OSCE症例(腰下肢疾患) 2
19	OSCE症例(腰下肢疾患) 3
20	OSCE症例(腰下肢疾患) 4
21	OSCE症例(膝疾患) 1
22	OSCE症例(膝疾患) 2
23	OSCE症例(膝疾患) 3
24	OSCE症例(膝疾患) 4
25	OSCE症例(足部疾患) 1
26	OSCE症例(足部疾患) 2
27	OSCE症例(足部疾患) 3
28	OSCE症例(足部疾患) 4
29	総括1
30	総括2

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野							
					○							
授業科目名	臨床実習3					担当者名	大中 孝子					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数				1	授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
授業概要	<p>これからの鍼灸師にとっても不可欠な能力である医療面接技法のスキルアップさせるために具体的な症例を用いて実習を行う。 実際に臨床現場に必要な人材になるための人格教育、また業務に必要なカルテの記載力向上を図ることを目的とする。</p>											
成績評価	レポート、出席状況、授業態度等医療人としての自覚を加味して総合的に評価します。											
その他	大中孝子(鍼灸施設勤務)											

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	プリント配布		
参考図書			

回数	授業計画
1	オリエンテーション(臨床実習の進め方)
2	オリエンテーション(医療面接の復習)
3	臨床実習に向けての実習①
4	臨床実習に向けての実習②
5	臨床実習に向けての実習③・臨床実習施設での実習
6	臨床実習に向けての実習④・臨床実習施設での実習
7	臨床実習施設での実習、グループディスカッション
8	臨床実習施設での実習、グループディスカッション
9	臨床実習施設での実習、グループディスカッション
10	臨床実習施設での実習、グループディスカッション
11	臨床実習施設での実習、グループディスカッション
12	臨床実習施設での実習、グループディスカッション
13	臨床実習施設での実習、グループディスカッション
14	臨床実習施設での実習、グループディスカッション
15	臨床実習施設での実習、グループディスカッション
16	臨床実習施設での実習、グループディスカッション
17	臨床実習施設での実習、グループディスカッション
18	臨床実習施設での実習、グループディスカッション
19	臨床実習施設での実習、グループディスカッション
20	臨床実習施設での実習、グループディスカッション
21	臨床実習施設での実習、グループディスカッション
22	臨床実習施設での実習、グループディスカッション
23	臨床実習施設での実習、グループディスカッション
24	臨床実習施設での実習、グループディスカッション
25	臨床実習施設での実習、グループディスカッション
26	臨床実習施設での実習、グループディスカッション
27	臨床実習施設での実習、グループディスカッション
28	臨床実習施設での実習、グループディスカッション
29	まとめ1
30	まとめ2

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野							
					○							
授業科目名	臨床実習4					担当者名	馬男木 亨					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等 授業時間数	1年次		2年次		3年次		
				1		前期	後期	前期	後期	前期	後期	
単位数											45	
授業概要	<p>これからの臨床にとって必要な知識と技術の向上を目的に、具体的な症例を用いたシュミレーションを行う。 また、症例から得られた情報をまとめ、カンファレンス形式で発表する。</p>											
成績評価	レポート、出席状況、授業態度等医療人としての自覚を加味して総合的に評価します。											
その他	馬男木亨(鍼灸施設勤務)											

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	プリント配布		
参考図書			

回数	授業計画
1	臨床シュミレーション
2	臨床シュミレーション
3	臨床シュミレーション
4	臨床シュミレーション
5	臨床シュミレーション
6	臨床シュミレーション
7	臨床シュミレーション
8	臨床シュミレーション
9	臨床カンファレンス①
10	臨床カンファレンス②
11	臨床シュミレーション
12	臨床シュミレーション
13	臨床シュミレーション
14	臨床シュミレーション
15	臨床シュミレーション
16	臨床シュミレーション
17	臨床シュミレーション
18	臨床シュミレーション
19	臨床カンファレンス③
20	臨床カンファレンス④
21	臨床シュミレーション
22	臨床シュミレーション
23	臨床シュミレーション
24	臨床シュミレーション
25	臨床シュミレーション
26	臨床シュミレーション
27	臨床シュミレーション
28	臨床シュミレーション
29	臨床シュミレーション
30	臨床シュミレーション

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野							
					○							
授業科目名	総合演習2					担当者名	小寺 凌					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
	単位数	2			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
授業概要	西洋医学・東洋医学の科目間の連携をはかり、実際の鍼灸臨床に役立つようにさらに深く理解することを目的として総合的に学習する。											
成績評価	出席点や宿題、レポート提出により評価する。											
その他	小寺凌(鍼灸施設勤務)											

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	生理学(第3版) 解剖学(第2版)	佐藤優子・佐藤昭夫他 著 奈良 信夫・佐藤千史他 著 (社)東洋療法学校協会 編	医歯薬出版
参考図書			

回数	授業計画
1	解剖学・生理学演習 1
2	解剖学・生理学演習 2
3	解剖学・生理学演習 3
4	解剖学・生理学演習 4
5	解剖学・生理学演習 5
6	解剖学・生理学演習 6
7	解剖学・生理学演習 7
8	解剖学・生理学演習 8
9	解剖学・生理学演習 9
10	解剖学・生理学演習 10
11	東洋医学・経穴学演習 1
12	東洋医学・経穴学演習 2
13	東洋医学・経穴学演習 3
14	東洋医学・経穴学演習 4
15	東洋医学・経穴学演習 5
16	東洋医学・経穴学演習 6
17	東洋医学・経穴学演習 7
18	東洋医学・経穴学演習 8
19	東洋医学・経穴学演習 9
20	東洋医学・経穴学演習 10

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野								
			○								
授業科目名	総合演習3			担当者名	大庭 慎一郎						
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
		2				前期	後期	前期	後期	前期	後期
単位数					授業時間数					40	
授業概要	これまでに習得した知識を基礎から確認し、応用的な知識へと向上させることを目的とする。										
成績評価	期末試験、授業態度、知識及び習熟状況を総合的に評価。										
その他	大庭慎一郎(鍼灸施設勤務)										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書			
参考図書			

回数	授業計画
1	オリエンテーション
2	
3	実力試験① 解答・解説
4	
5	実力試験② 解答・解説
6	
7	学園祭
8	
9	実力試験③ 解答・解説
10	
11	実力試験④ 解答・解説
12	
13	
14	実力試験⑤ 解答・解説
15	
16	
17	期末試験 解答・解説
18	
19	
20	

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野								
			○								
授業科目名	総合演習4				担当者名	黒川 典子					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等 授業時間数	1年次		2年次		3年次	
		2				前期	後期	前期	後期	前期	後期
単位数											40
授業概要	解剖学と生理学、病理学の科目間の連携をはかり、実際の鍼灸臨床に役立つようにさらに深く理解することを目的として総合的に学習する。										
成績評価	原則として、授業態度、定期試験および追・再試験の結果で評価する。										
その他	黒川典子(鍼灸施設勤務)										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	解剖学(第2版) 生理学(第2版)	河野邦雄、伊藤隆造他著 佐藤優子・佐藤昭夫他 著 (社)東洋療法学校協会編	医歯薬出版
参考図書			

回数	授業計画
1	解剖生理病理 基礎①
2	解剖生理病理 基礎②
3	解剖生理病理 基礎③
4	解剖生理病理 運動系①
5	解剖生理病理 運動系②
6	解剖生理病理 運動系③
7	解剖生理病理 運動系④
8	解剖生理病理 運動系⑤
9	解剖生理病理 神経系①
10	中間試験 解答・解説
11	解剖生理病理 神経系②
12	解剖生理病理 神経系③
13	解剖生理病理 神経系④
14	解剖生理病理 神経系⑤
15	解剖生理病理 内分泌①
16	解剖生理病理 内分泌②
17	解剖生理病理 内分泌③
18	解剖生理病理 内分泌④
19	期末試験
20	期末試験/解答・解説

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野								
			○								
授業科目名	総合演習5			担当者名	小寺 凌						
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
		2				前期	後期	前期	後期	前期	後期
単位数					授業時間数						40
授業概要	経穴の取穴部位と身体解剖との位置関係を理解し、それを東洋医学的鑑別(四診法など)を用いてそれぞれの病証に対して弁別し、鍼灸治療を用いた臨床応用が出来るように学ぶ。										
成績評価	原則として、小テストを含めた定期試験の結果で評価する。										
その他	小寺凌(鍼灸施設勤務)										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	新版 経絡経穴概論	教科書執筆委員会 著	医道の日本社
参考図書	東洋医学概論	教科書執筆小委員会著 (社)東洋医法学校協会編	医道の日本社

回数	授業計画
1	経穴の総合演習①(骨度法、流注について)
2	経穴の総合演習②(要穴について)
3	経穴の総合演習③(背部、腹部の並びの経穴について)
4	経穴の総合演習④(四肢の経穴について)
5	経穴の総合演習⑤(奇経八脈、奇穴について)
6	経穴の総合演習⑥(筋と経穴について)
7	経穴の総合演習⑦(神経と経穴について)
8	経穴の総合演習⑧(神経と経穴について)
9	経穴の総合演習⑨(動脈、臓器と経穴について)
10	中間試験 解答・解説
11	東概の総合演習①(五行色体、陰陽について)
12	東概の総合演習②(生体物質について)
13	東概の総合演習③(臓腑について)
14	東概の総合演習④(経絡について)
15	東概の総合演習⑤(病因病機について)
16	東概の総合演習⑥(四診について)
17	東概の総合演習⑦(弁証論治について)
18	東概の総合演習⑧(弁証論治について)
19	期末試験
20	期末試験/解答・解説

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野								
			○								
授業科目名	総合演習6					担当者名	馬男木 亨				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等 授業時間数	1年次		2年次		3年次	
		2				前期	後期	前期	後期	前期	後期
単位数											40
授業概要	問題演習を通して、各科目の習得度を確認し、さらなる知識の向上をはかることを目的とする。										
成績評価	原則として、定期試験および追・再試験の結果で評価する。										
その他	馬男木亨(鍼灸施設勤務)										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	東洋医学臨床論 東洋医学概論	教科書執筆小委員会著 (社)東洋療法学校協会編	医道の日本社
参考図書			

回数	授業計画
1	実力試験①(解剖・生理学) 解答・解説
2	
3	
4	
5	実力試験②(病理学・臨床医学総論・臨床医学各論) 解答・解説
6	
7	
8	
9	実力試験③(東洋医学概論・経絡経穴概論) 解答・解説
10	
11	
12	
13	実力試験(東洋医学臨床論・はり理論・きゅう理論) 解答・解説
14	
15	
16	
17	期末試験 解答・解説
18	
19	
20	